

会 議 議 事 録

1 会議名	「長岡の子ども50冊」(仮)第3回 選定委員会
2 開催日時	令和4年1月25日(火曜日) 午前10時から正午まで
3 開催場所	中央図書館 講座室1
4 出席者名	(委 員) 錦恵美子委員長 丸田俊一副委員長 淵本紀子委員 中村厚子委員 (事務局) 佐藤中央図書館長 中村館長補佐 松矢奉仕係長 井口主査 渡邊主査
5 欠席者名	なし
6 議題	議事1 「長岡の子ども50冊(仮)」リストの内容について 議事2 「長岡の子ども50冊(仮)」名称について 議事3 「長岡の子ども50冊(仮)」リストの活用方法について
7 審議結果の概要	・議事1について 年代別選定候補図書リストについて、決定した。 ・議事2について 候補を基に意見交換し「よもよもブックス」に決定した。 ・議事3について 活用方法について確認した。

8 審議の内容	
委員長	それでは議事に入ります。 最初に、「(1) 長岡の子ども50冊(仮)」リストの内容についてです。前回検討したリストを図書館で再検討したとのことで、年代順に確認したいと思います。 0歳から2歳と3から5歳のリスト。事務局の説明をお願いします。
事務局	それではリストの再検討の方法についてご説明いたします。 まず検討ですが、学校教育課、子ども・子育て課、保育課の担当職員、学校図書館司書、地域図書館スタッフにアンケート形式で意見を聴取しました。その結果を受けて、再度図書館内部で検討しました。 【0-2歳】 『ぞうくんのさんぽ』は赤ちゃんにははやいのではという職員の意見が多かったのですが、2歳児にある程度ストーリー性のあるものという選定委員会でのご意見を受けた観点からリストのままとしました。 【3-5歳】 『おたすけこびと』について、他の候補の本と比べるとまだ読み継がれた本とはいえないのではないかという意見がありましたが、この本はとても人気のある本で、シリーズ化されていて楽しい本です。読み継がれている本だけではなく、新しい感性、新しい作家の作品を加えることにしたいと思います。
委員長	みなさまでしょうか。この2冊について、何かお気づきの点等ありましたら、おっしゃってください。
委員	説明を聞いてそうだなあと思った。『おたすけ〜』は読んで楽しく、『ぐりとぐら』のカステラを作る感じに似ていると思いました。
委員長	問題なさそうだと思います。『ぞうくんのさんぽ』は『おつきさまこんばんは』と同様、初歩の簡単な物語性がありますね。2歳くらいで物語を理解できて楽しむことができますね。 『おたすけこびと』はすごい人気があるんですね。図書館にいつもなくて、予約しないといけないくらい。
事務局	『いやいやえん』が選定外となった理由について、長く読み継がれた本ではありますが、リストからは外してあります。男女の性別による

	役割を固定させる内容のものを外してあります。例えば、冒険に行くのは男の子、待っていて花束を渡すのが女の子、という設定が、役割を固定させてしまうかなと。
委員長	確かにそうですね。他に何かありましたら何なりとおしゃってください。 では次の小学校（低・中・高学年）中学生のリストについて事務局から説明をお願いします。
事務局	今回のリストの中で低学年むけでご提案いただいてリストに入れようと思っていたのですが、教科書では３年生に掲載されていたものがありました。『とりになったきょうりゅうのはなし』は低学年としていましたが、学校現場で学年が異なることに違和感を抱くかもしれないため、中学年としたいと思います。
委員長	年齢は、あくまでも目安ですよ。読書量が多い子はどんどん読める、少ない子は難しくて読むのが嫌だと最初から毛嫌いするかもしれない。リストに年齢は目安だということを書き添えるのが良いと思います。
事務局	『とりになったきょうりゅうのはなし』を中学年とし、かわりに『中をそうぞうしてみよ』を低学年に入れたいと思います。 中学生のリストに『センス・オブ・ワンダー』があり、以前の会議で、写真が妙高で撮影されたものなど新潟県に関連していてよいということでした。再検討している中で中学生が手に取って読むには難解ではないか、大人が子ども時代を振り返って読むとよい本で、今の中学生が読むとピンと来ないのではないかと、もう少し人生経験をしてから読んでもらう方がよいのではないかと結論になりました。 中学生のリストには市民アンケートで推薦のあった『ミライの授業』を加えました。著者は若くして亡くなった方ですが、授業形式で語り口調で書かれていて大変読みやすい本です。世界の偉人を２０人取り上げていますが、明るい未来を自分たちが切り開くことができると伝わるのではないかと思います。例えば、ナイチンゲールは看護したのがすごいのではなく、戦場での死者の数を統計学的に集計し、戦闘で死亡する人よりも、傷がもとで感染症で死亡する人が多いことを明らかにしたことがすごい、ということが書いてあるんです。
委員長	いままで思ったこととは違うことに気付いてほしい、すごくいいと思います。

事務局	『おおきな木』（読む）大きな木と少年の話。村上春樹の訳で新しく出ています。自己犠牲の話ととらえるか、本当に幸せといえるのかどうか、いかがでしょうか。
委員	話題にはなったけれど、どうかしら。これを読んで中学生にどう思っ てほしいのか疑問だし、暗い内容で基本的には好きではない。
副委員長	選外になった2冊が、環境や、持続可能な社会等、他に代わりに何を入 れるかという点で難しい。確かに『センスオブワンダー』は翻訳もの で自分で読んでいても難しい。翻訳なので何度も読んでもわからない ところがある。
委員長	『おおきな木』木から見ると自己犠牲ですが、少年から見るとどうな のか。木から散々奪っておいて、最後にはしょぼくれた老人になって、 人生こんなものとは思われたら困ります。希望がない感じがする。木 にとっては自己犠牲というか、自己満足なところがある。少年にとっ てはどうなのか。『おおきな木』と『センスオブワンダー』をはずされ たのはいいのではないかと思います。 何か疑問に思うものがあればおっしゃってください。
委員	わざわざ、テレビとかアニメ化されたものを入れなくてもいいのかな と。『魔女の宅急便』や『精霊の守り人』とか、映像で見て、本も読み ましたが、もっといい本があれば映像になっていないものでもいいの かなと。
委員	映像から本に入ってくる子もいるのでいいと思います。映像はずっと 入るが、本はすぐには入ってこないが深い。本を読むきっかけにはな ると思うので、映像から入るのもいいと思います。『精霊の守り人』 は本だけなら手に取りにくいかもしれないが、映像で知っているとな り取りやすくなる。『ハリーポッター』とか『モモ』とか。
委員長	比較するのもおもしろいですよね。映像で見て原書はどうなっている のかなとか。
委員	子どもの文庫をなさっていた原先生が、80歳くらいの頃、ずっと本 だったが、映像でしか表せないものもあるとおっしゃっていた。映像 から入ると入りやすい。結果がわかっていると本が読みやすくなる。 本を読む時の助けになることがある。

委員長	原文を読んでがっかりする例もある。脚本とか役者とかがすごくいいことがわかることもある。原文が気になって読んでみたいと思う。
委員	中学生くらいになるとそういう読み方ができるようになる。比較して楽しめようになる。
委員長	『西の魔女が死んだ』は映画化されていますが、これをきっかけに、作者の他の作品やエッセイもどんどん読んでほしいなと思います。まずきっかけを作るという点ではいいのかなと思います。 あと、どうでしょうか。 小学校の低学年で自分の力で1冊読み終えたという充足感があるとまた本を読みたくなるというのがある。『きえた犬のえ』はいいですね。低学年でやっと字を覚えて、自分の力で1冊読み終えたという満足感を低学年のうちに与えたいと思います。絵本はいつも読んでもらっていたけど、今度は自分の力で読んでみるというのにちょうどよい内容と薄さの本が選んであると思います。
委員長	ではリストの検討をここまでとして、続いて議事2「長岡の子ども50冊（仮）」名称についてです。事務局から説明をお願いします。
事務局	今日お配りした資料をごらんください。名称について前回多くの候補をあげさせていただいて、その後事務局で絞ったものです。
委員長	キャッチコピーですから割と短い方が良いような気もするし、子どもがちょっと覗いてみようかなと思ってもらえたらいいと思いますし、目に飛び込んでくる、子どもが心を動かされる、とびつくようなのは。前はよもよもというのが出てきましたが、いかがでしょうか。「よもよもボックス」
委員	活用方法によって、名称が変わるのかなとも思いますが。
事務局	活用方法は、年齢別のリストを作成し学校保育園等に配るとか、図書館にコーナーを作るとかを考えています。また、小中学校ではタブレットが配られていますのでそれで見られるようにリンクを貼ったり、スタンプラリーなどのイベント的なものを行いたいと考えています。
委員長	「よもよも」という言葉なんですが、子どもたちは認識しています？
館長	子どもたちにはこれからPRを始めるので、新しい言葉の方が何だろうと思ってもらえるかなと思います。

副委員長	「よもよも」にしてキャラクターを絵で示すのはどうでしょう。牛が本を読んでいる姿にするとか。 キャッチフレーズはこれでよいと思います。定着してくれば。
委員長	定着するといいいですね。
館長	長いのですが、何なのかが伝わらないと困るので、場合によってはよもよもボックスだけを使い、説明する場合は「長岡の子ども１００冊」を加えるバージョンも考えられますね。
委員長	「よもよもボックス」サブタイトルみたいにして「長岡子ども１００冊」をつけるのはどうでしょう。
委員長	要するに本の案内なんですよ。 「よもよもボックスナビ 長岡子ども１００冊」 「よもよもボックス 長岡子ども１００冊」
委員長	タイトルは「よもよもぶっくす」にして、パンフレットを作るときに、説明があると思うのでその時に説明子どもたちにいっぱい本を読んでもらいたいという思いで作ったということ。
委員	思いを入れてもらうのは、いいですね。
委員長	大きなタイトルは「よもよもボックス」にして、私たちの思いを下の方に書いていただきたい。
副委員長	ローマ字のロゴもおもしろい。YOMOMOMO。牛自体を読もう君にするとか。
館長	デザインと合わせて工夫して考えたいと思います。何かの場面で伝わらないなという時に「長岡の子ども１００冊」というところをを付け加える場面が出てくるかもしれませんがそこはお許しいたいて。
委員長	そうですね。大きなタイトルは「よもよもボックス」で、あとは補足するということで。 続いて議事３「リストの活用方法について」です。事務局から説明をお願いします。
事務局	活用方法についてご説明いたします。

	①ホームページへの掲載 ホームページには、選定の経緯と考え方を載せたいと思います。 物語だけではなく、科学絵本も選んだこと、性差を無意識のうちに子供たちに伝えてしまうことを考えて多様性を認める視点を持った作品を選定したことを加えようと思います。 ②コーナー設置、リスト配布、小中学校でのタブレットでの活用 先ほど話題になった小中学校への貸出、児童館への貸出、スタンプラリーなどが挙がっています。
委員長	ただいまの説明について、ご質問、ご意見をお願いいたします。
委員長	学童保育はどうですか。子育て支援施設はもちろん、子どもたちが集まるところ、児童館、ありとあらゆるところに配ってアピールしてください。リストだけでなく本を置いておくことができますか？毎年予算の中で少しずつそろえていくと時にこのリストが生かされていくといいですね。小学校の予算はどうですか。
副委員長	学校は予算は相当あると思います。何十万円単位で。
委員長	本当に近くに本があると子どもは手に取りますよね。リストの配布も大事ですが、子どもたちの手に届くようにしてもらいたいですね。環境は大切です。
委員長	リストって、見てないかなと思うと意外と見ているんですよ。秋田県の「マザーズタッチ」（子どもの本を普及するために、年齢ごとにh事本を選書してパンフレットを作り保育所、学校、図書館に配布した）の例ですが、全県どこにでも子どもがいるところあらゆるところにこの冊子が配られたわけです。毎年作るのでお母さんが毎年ファイルしていて、子どものころ図書館に行って借りて読んでいた、という学生がいました。本当にびっくりしました。ちゃんとリストをもって図書館に行っていたというから、ものすごくうれしかったです。リストって大切だなと思いました。読み聞かせは大切とは言われているけれど、本屋さんに行くととまどってしまいますよね。図書館の司書が選んだ100冊というふうにして本屋さんに置かせてもらえれば。
委員	読む本を選ぶのは大変だから指南があるといいですよ。「困ったらリストを」と書いておくのもいいのでは。本屋さんに有名人が選んだ本棚っていうのもありますよね。
委員長	本屋さんも売れるならいいですよ。毎年コーナーを設けていただい

	て。並べ方でずいぶん違うと思う。本屋さんにも働きかけてみてください。
事務局	今後の課題として、SDG s の考え方や子どもの貧困、ヤングケアラーなどをアメリカでは特別なことではなく物語の中に取り入れられているようです。今後見直しをするときには取り入れていきたいなと思います。
委員長	本を読むことによって、人種差別など、差別はいけないんだということを考えてみるということもありますね。
委員長	『グリーンブック』という映画を見ましたが、著名なピアニストは黒人、運転手は白人という設定で、あえて差別の映画を作って先駆けだと思のですが、差別の中で育っているから、当たり前だと思っていたけれど、だんだん成長していくんですよ。考える機会になりますよね。避けて通れないことはありますね。『ちびくろさんぼ』もそうですよね。大論争になりましたけれど。子どもたちはすごく好きで。子どもたちは関係なく楽しむ。難しい問題です。
委員	臓器移植の問題なんですけど、今はいっぱいあって、北海道で心臓移植をした人がいて、それを待っている人の話があったんですよ。臓器移植には反対だったんだけど、待っている人の気持ちになったら反対、とは言えなくなりました。今臓器を売る人がいる時代だから以前図書館で子どもの本を読む会という読書会をしていた時に取り上げられた本なんですけど。高校生くらいの子が、お金がないなら臓器を売ればいいという話をしていて、はっとした。葛藤ですよ。人が死ぬのを待って生きるための臓器をもらう。待っている人がいることを思うと今は日常茶飯事のようにドナーということで、当たり前になっているけれど、命について考えるきっかけになる本があればいいなと思いました。
副委員長	今いろいろ話を聞かせていただいて、長岡ならではの、核になる SDG s もそうですが、平和教育とか入っているといいかなと思います。平和もいろいろなところにつながっていて、差別、環境につながる、長岡ならではの戦争を体験した長岡にとっての 100 冊に入っているというふうになっているといいと思います。
委員	小さいうちから、若い親御さんが読んであげるような、きっかけ作ってあげなければ、与えてあげなければ、本好きにはならないので、小さい時から保育施設などでアピールできるといいなと感じています。

委員長	私の体験からは、本を読んでもらうことが嫌いな子はいないんですよ。どの子も本に対する興味を持っている。大人の持って行きようなんだろうね。1日10分15分なので読んでやってほしい。忙しい忙しいと言うが。
委員	保育士として読んであげると、きれいな子はいないと思う。家庭で読んであげてほしい。
委員	一生に1冊でいいから、大好きな本を持っていてほしい。いつでも帰れるよりどこがあるといい。
委員長	それでは「長岡の子ども50冊（仮）」について第3回の検討を以上としたいと思います。
9 会議資料	別添のとおり